

数理科学に関するグローバルPBL(スラバヤ工科大学、オンライン)

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2020年11月07日 ~2020年11月28日	日本	スラバヤ工科大学	数理科学科 ・学部1年生 ・学部2年生 ・学部3年生 ・学部4年生	(芝浦工業大学) 学生14名、TA3名、教員2名 (スラバヤ工科大学) 学生30名、TA10名、教員2名、 職員1名	福田 亜希子(数理科学科) 中津 智則(数理科学科)

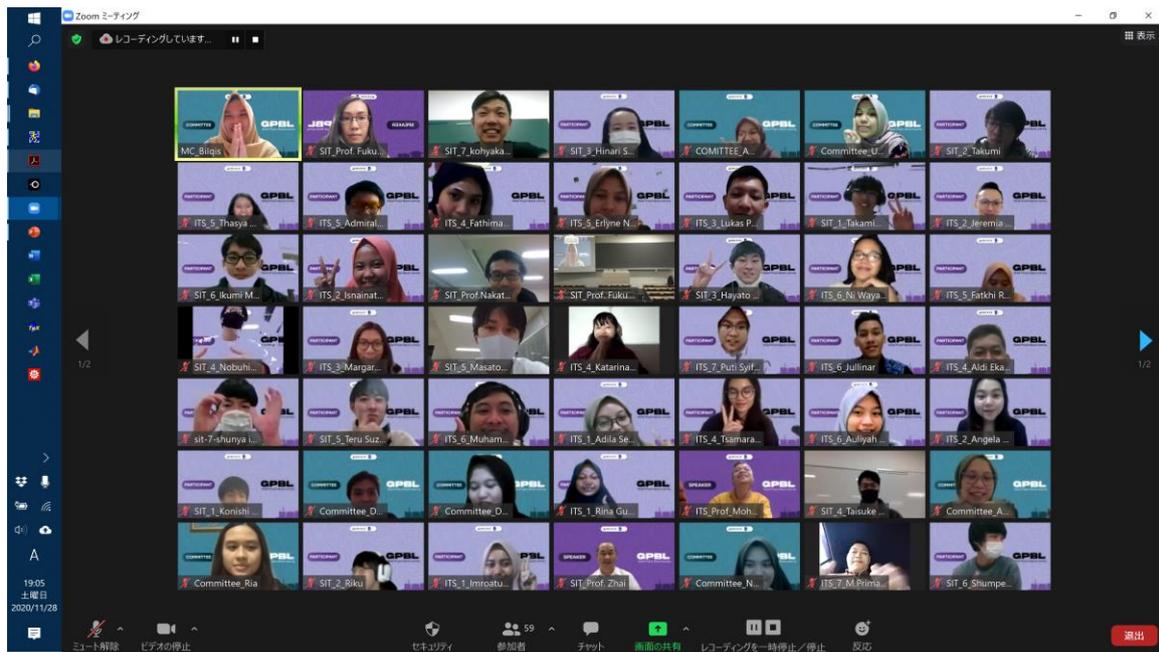


図1 集合写真

インドネシア・スラバヤ工科大学(ITS)学生と本学数理科学科学生でグローバルPBL(gPBL)を実施した。ITSとのgPBLは今回で3回目であるが、今回は新型コロナウイルス(COVID-19)の影響によりZoomを用いたオンラインgPBLとなった。本PBLは新型コロナウイルス感染拡大に対して数学がいかに貢献できるかを意識し、グループワークのテーマを”Mathematical challenges towards disease outbreaks”とした。内容としてはまず、福田(SIT)・中津(SIT)・Iqbal(ITS)がテーマに関連する講義を行い、それらを参考にITS・SIT学生の混合グループに分かれ、各グループで独自のテーマ設定・データ収集・解析などを行った。最終発表では、機械学習などの技術を用いたCOVID-19の感染の分析と今後の予測や、肺のレントゲン写真を用いた陽性の判定などユニークな発表も見られた。グループワーク以外では、ITSスタッフによる、オンラインゲームやクイズ、インドネシアの伝統的ダンスや音楽の紹介などがあり、オンラインでも十分に楽しめるよう工夫がなされていた。参加学生はグループワークやイベントを通じて、数学がいかに社会に貢献できるかを知り、異文化に触れることの大切さを学ぶことが出来た。

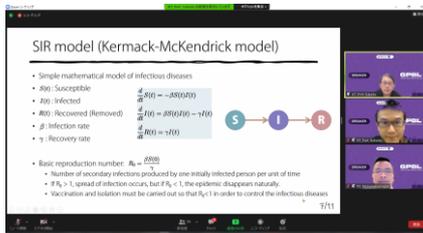


図2 講義の様子(福田)

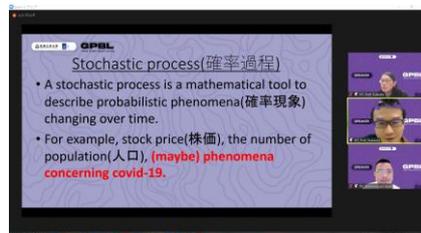


図3 講義の様子(中津)

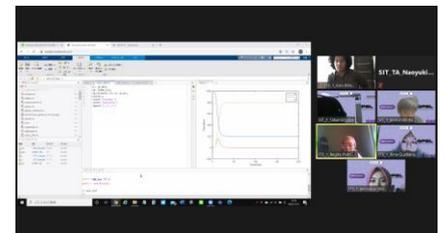


図4 グループワークの様子

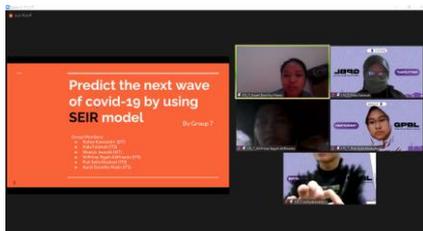


図5 最終発表の様子1

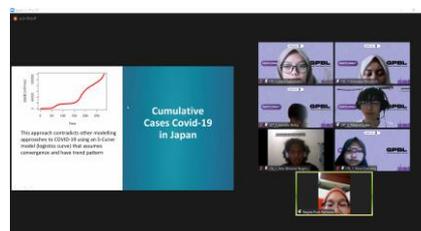


図6 最終発表の様子2



図7 インドネシアのダンス